

- 本号の内容
- 1 「仲間を返せ」の署名、大津地裁に提出(6/6).....p1
 - 2 「総評OB会」が支援決議(6/4).....p2
 - 3 吉田生コンに抗議行動(6/1).....p2

「仲間を返せ！」署名を提出

6/5 大津地裁に1,152団体、1万6859筆

●県警の違法捜査について調査するよう申し入れ

6月5日(水)14:30、滋賀県の天津地方裁判所に、平和フォーラム勝島事務局長、全港湾大阪支部小林書記長、地元の関生支援勝手連など代表団7人で署名提出にでかけた。

5月末日で集約した署名は団体が1152、個人が1万6859筆。対応した山西広記総務課長に対し、①要請事項に対する回答、②滋賀県警は逮捕された多数の組合員や家族にまで「組合を辞めろ」と執拗に働きかけている。捜査に名を借りたこのような違法行為の実態について裁判所が調査すること、③多数の被告、複数の事件という大がかりな事案をたった1人の裁判官で審理することの是非について裁判所の見解を示すことなどを申し入れ、責任ある回答を用意するよう求めた。

ところで、山西課長の名刺をよく見ると「天津家庭裁判所」と書かれている。「所属は家裁だが、地裁宛の申し入れなどの対外的窓口は私が担当することになっている」との説明だが、地裁と家裁の兼務辞令は出されていないという。地裁の担当者が問い詰められたら困るので逃げたというのが実際のところだろう。今井輝幸裁判官の訴訟指揮も問題だらけだが、裁判所そのものに問題があるとの感想をもった。(今井裁判官の訴訟指揮の問題は追ってまとめて報告します。)

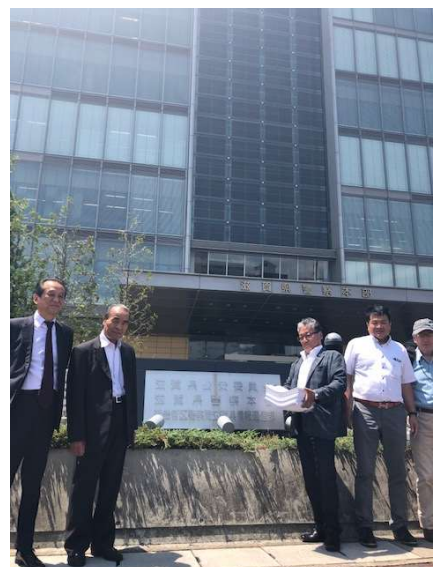
なお、署名は6月1日以降も続々と組合事務所に届いている。一定の時期に申し入れ事項への回答を聞くのとあわせて再度提出する予定だ。

●滋賀県警の思い上がり抗議、署名持ち帰り

ところで、代表団は天津地裁に先立って、滋賀県警を13:00に訪れた。(写真右)

だが、結論からいうと、あまりにデタラメかつ思い上がった県警の態度に抗議して、署名は提出せず、いったん持ち帰ることになった。

まず、アポ取りの際に当日の担当と名乗っていた人物は不在。出てきた人物は「部屋が狭いので2人でお願いします」と言い張る。15分近く抗議したあげく、ようやく用意された広々とした会議室へ。さて署名を手渡そうとすると、今度は「写真撮影はお断り」と言い出す始末。(次ページにつづく)



どこの役所でも申し入れ文書の手交や署名提出を撮影するのは民主主義社会なのだから当然なのだと言われるも、やれ「管理権」だ、「庁舎内の撮影は業務に支障がでる」とか「前例となったら困る」などなど説明を二転三転させて頑として応じない。しかたないので、「では次に来るときは本部長に直接受け取ってもらおう」と通知して、ひとまず持ち帰ることにした次第。

(滋賀県警の体質の一端は別紙6日付京都新聞を参照)

「総評OB会」が支援決議

頼もしい諸先輩の方々に激励され(6/4)



6月4日(火)、総評OB会が総会をひらき、小谷野書記長が関西生コン事件のあらましを20分かけて報告させていただいた。(写真右は全日建顧問でもある永井孝信会長＝元労働大臣)

今年度の運動方針では、憲法改悪阻止、参議院選挙闘争と安倍内閣打倒、脱原発などとならぶ重点課題に「全日建関西生コン弾圧事件支援」を位置づけていただき、会場ではカンパもあつめてくださっ

た。歴戦の諸先輩方に「総評の仲間として支援を惜しまない」と激励していただいた。

吉田生コンは不当解雇を撤回せよ

関生支部が統一行動(6/1)



6月1日、関西生コン支部40人の仲間が吉田生コン(奈良市)の社前で抗議行動。「大阪広域協と結託した不当解雇を許さない」とシュプレヒコールをあげた。この日は大阪広域協の「防衛」がなく、うろたえた会社は警察を呼んだ。しかし、正当な組合活動に手出しできるはずもなく遠巻きに見守るだけ。吉田社長はがっかりだったようだ。